

日本の凋落（ちょうらく）と劣化。日本は国際競争のすべての面で順位を下げ続けています。また、日本国内での政治の姿や企業統治の劣化は目を覆いたくなるほどひどいものです。戦後から1980年代までの日本国民が頑張って蓄積してきた財産や技術を、日本の政治家や大企業の経営者たちが「まだ日本はすごいのだ」と勘違いして、それを食いつぶしているのです。あなた達の未来が危ないのです。今の力がある指導者達、保守系の政治家や、安定した昔からある大企業の幹部クラスの人たちを退職させて、若い世代に早急に指導権を譲るべきなのです。これまでの日本の繁栄を、今の指導者たちが食いつぶしているのです。そのような記事がしばしば新聞を賑わせているので、集めてみました。あなた達、これからの日本の主役が、立ち上がって、団結して、明るい未来を作り直す必要があるのです。(原稿は2月5日の分です)

【下】「日本大学」の大学組織全体がヤクザ組織であり、詐欺やペテンの組織であり、それにもかかわらず毎年国民の税金を（昨年度は90億円）受け取っていたという記事です。このようなひどい大学は昔からたくさんありました。昔は国立大学に国庫から多額の税金が払われており、私立大学はほとんど学生が授業料として払っていたので、私立の学生は大変だなあと同情していたのですが、現在は私立の高校や大学にも多額の税金が配布され、その分学生の負担は軽くなっていますが、結果として政治家と私立大学の経営者との癒着がひどくなり、今回のようなひどい話が明るみになったのです。安倍晋三の時の森友問題や加計学園問題と同根の病理です。しっかり勉強して、まともな経営の私大科国立大学に進学して、損しないようにしてください。森は、こんな次第に政府の援助をするのではなく、頑張った生徒が通う国立大学へ、税金をもっと回して、国立大学の授業料を下げるのがまともな方法ではないかと考えています。

【下】昔は、と言っても安倍政権誕生の前までは、日本の政治や経済の在り方を批判的に述べる評論家やアナウンサーそして役者やお笑いタレントがたくさんいました。しかしその後のここ10年間で、安倍総理は自分に批判的なことを言う人たちを、放送局の経営者や指導者を脅すことで、自分への批判的な考えの人たちを、テレビや新聞から追い出してしまいました。今や吉本興業のタレントに代表されるような、権力に阿って（おもねって＝強者が喜ぶことばかりをすることで、付度＝そんたくと同じ意味です）ばかりのタレントがテレビ画面を独占し、安倍さんなどの富と権力を有する保守的な指導者を批判する人たちは、テレビなどのメディアに登場しなくなっているのです。ですからあなた達は「衰えていく日本の本当の姿」さえ知ることができない時代になっているのです。この国の自由も真実も破壊され隠蔽（いんぺい＝隠すこと）されるようになりました。このような日本のひどい姿に危機を感じた一人であるラサール石井さんは「自分の考えを通した活動をするのだ」という、大見得を切った（はっきりと自分の立場や信念を著わす行動）ことをされているという記事です。立派な、本物のタレントだと思いませんか？また、このような記事を掲載する西日本新聞社の勇氣に感動しませんか？



田中容疑者 日向のドン君臨13年 南向かう人物、次々左遷

大学内物言えぬ雰囲気 理事会は「自分」機能不全 甘んじない、厳しく罰せられたいと訴える。...

政治的発言続けるタレント ラサール石井さん 「文句言いおじさん」の覚悟

芸能界に変化の兆し 1959年、大分県生まれ。1977年に東京大学文学部国文学科に入学。...

提論 米中対立のはざま 現実主義の知恵生かせ

特集ワイド 熱血! 与良政談 与良正男

【下二つ】日本は先進国で一番給料が安い国です。お隣の韓国にも負けています。「民主主義」の時代なのです。他者に任せないで、自分たちで日本を変えるのです。



時給はいつも最低賃金、これって私のですか？ 脱お任せ政治 対話が生む希望



表現の不自由展

「表現の不自由展」の主な「表現の不自由展」

年代	表現の不自由展
1970年代	『赤い糸』(1970年)、『赤い糸』(1971年)
1980年代	『赤い糸』(1980年)、『赤い糸』(1981年)
1990年代	『赤い糸』(1990年)、『赤い糸』(1991年)
2000年代	『赤い糸』(2000年)、『赤い糸』(2001年)
2010年代	『赤い糸』(2010年)、『赤い糸』(2011年)
2020年代	『赤い糸』(2020年)、『赤い糸』(2021年)

大阪府など題材激しい抗議

大阪府など題材激しい抗議

育児に冷たい社会

給付少なく親に負担

子育てで頑張る親に冷たく、給付が少なく親に負担が大きい。子育てで頑張る親に冷たく、給付が少なく親に負担が大きい。

子育てで頑張る親に冷たく、給付が少なく親に負担が大きい。

日本の外交はすべてアメリカ任せそしてアメリカ合衆国の言いなりです。ウクライナの危機がある今、ウクライナだけではなく、ロシアの苦しみを理解したうえで、平和憲法を持ち、これまで世界中から尊敬されてきた日本が今こそ世界のリーダーになるべきチャンスなのです。それなのにアメリカ合衆国の言いなりになって、中華人民共和国などの意見を聞こうともしていません。本当に情けなくなります。館長が怒る理由がわかっていますか？このようにない加減な政治のつけ(=将来の損失)のすべてが、あなた達にのしかかってくるのです。私にとってはいきがいであるあなた達の招来が危うくなっているのです。

【右】加藤陽子さんは、菅総理に迫害されている、東京大学の教授で、毎日新聞に月に2回意見を述べておられる、公正で立派な学者さんです。

オピニオン

近代史の扉

外部から調達される危機

「人ごと感」漂う日本

加藤陽子の近代史の扉

外部から調達される危機

【上】借金だらけで 【上右】子育てで頑張る親に冷たく 【左下】他者のために尽くそうとする若い世代を使い捨てにする 悲しいけれど、これが日本の本当の姿なのです。しっかりと目を開いて現実を見てください!! こんな社会を変えるために、しっかりと学ぶのです。他人任せにしないでください。「あなた」が変えるのです。まじめに勉強することへの熱意が湧きましたか？ 森館長は本気なのです。いずれも新聞記事なので、館長と同じような考えの記者たちがたくさんいるのです。



悩みや怒りがあつたら、名画(見る価値があると歴史的に評価されている良い映画)を見ましよう。気持ちが安定しますよ。



民主主義と多数決についての理解のための、伊藤真先生のお薦めの映画の紹介→「評決の行方」(左)

森は法律家になるための受験学習のためにしばらく上京して学習していました。その時の先生のひとりが塾にたくさん置いている司法試験の受験指導の神様「伊藤真先生」です。その時に「多数決は少数意見を守るためにある」ということを教えられました。その時は一体何の話か分かりませんでした。1957年作成のアメリカ映画「12人の怒れる男」というヘンリー・フォンダ主演の映画を見てそのことの意味が分かりました。「多数決は、しっかりと議論した後で初めて実施ができる制度である」こと、「議論をしないですぐに多数決で決めようとする態度は、多数決の存在目的に反し、反民主主義的な行いであること」を学びました。「真の民主主義を守る」ということは同時に「少数意見を尊重すること」と同じ意味になるのです。時の指導者や多数の意見に無条件に従おうとする、今日の日々という国家の在り方は、多くの識者が指摘されるように、戦前の軍国主義の時代と同じであり、歴史は繰り返し、日本は破滅するでしょう。

もう一つ、ノーベル文学賞を受賞しているジョン・スタインベックの「怒りのブドウ」の紹介をさせてください。中学時代にこの映画をみて、本を読んだ後、自分の人生は変わりました。高校生か大学生になったら読んで下さい。

「五輪 人も物も使い捨て」

「子どもの頃からあんなに好きだったオリンピックなのに、奴隷のような扱いをされて今は悲憤しかありません。新型コロナウイルスの感染が収まらない中、開かれた東京オリンピック・パラリンピック。東京都内の競技会場でアルバイト清掃員として勤務した近代女性はそう大会を振り返る。新型コロナウイルスの感染におびえ、大層の食べ残しや飲み残しを知りながら、自分たちが「使い捨て」と感じさせられる失態の日々だった。

清掃員「手」でトイレ掃除/大量の残飯廃棄

清掃員「手」でトイレ掃除/大量の残飯廃棄

【右】2022年2月のNEWSWEEKの記事で「どこの国がツイッター社への削除依頼件数が多いかの記事です。驚かないで下さいよ、なんと日本が1位なのです。続いてロシア、トルコ、インド、韓国の順です。このことの意味が分かりますか? そうなのです「日本が先進国の中で一番表現の自由がない国であること」を証明しているのです。もちろん館長達のように自由を重んじる人間はその傾向を早くから感じ取っていましたが、NEWSWEEKでも、そのことが証明されているという記事です。日本には中国やロシアと異なって表現の自由があると思込込んでいる人は、もっと学習をして、「真実」を知ってください。